

主題：神の家また神の都としての召会を建造するための 主の回復の内在的な意義

メッセージ 9

エズラの務め——きよめ

聖書：エズラ 9:1-10:14. マタイ 5:8. 啓 22:4. 21:18 後半, 21 後半

I. エズラが到着する前、神の回復された民の間に混合がありましたが、彼は「聖なる種族」をどのような異教のものからも分離させることによって、回復をきよめました——エズラ 9:1 — 10:14 :

- A. 主の回復は聖なる種族です。わたしたちは純粋になって、聖なる種族が決して異教の何ものともミングリングされないようにしなければなりません。
- B. 主の回復では、聖なる種族をどのような異教のものからも分離して純粋にする必要があります—— 9:1 — 10:14 :
 - 1. 主の回復のあらゆる段階で、純粋にする必要があります。
 - 2. 地方召会の中で、わたしたちはあらゆる混合から徹底的に純粋にされなければなりません。
 - 3. どのような世俗的なものも、主の回復の天的な性質に反するどのようなものも、一掃されなければなりません—— II テモテ 2:19-22。

II. 「心の純粋な人たちは幸いである。彼らは神を見るからである」——マタイ 5:8 :

- A. 心が純粋であるとは、目的が単一であり、神の栄光のために神のみこころを完成するという単一な目標を持つことです—— I コリント 10:31。
- B. 純粋な心とは、主を唯一の目標とする心です—— I テモテ 1:5. II テモテ 2:22. 詩 73:1。
- C. 心が純粋であるなら、わたしたちは神を見ます——ヨブ 42:5 :
 - 1. 新約の意味では、神を見るとは神を得ることであり、神を得るとは要素、命、性質において神を受けて、神で構成され、神と一になるだけでなく、神の一部ともなることです。
 - 2. 神を見ることはわたしたちを造り変えます。なぜなら、わたしたちは神を見ることで彼の要素を内側に受け入れ、神格においてではなく命と性質において神となるからです。
 - 3. 神を見るとは、キリストの栄光のかたち、神・人へと造り変えられることであり、それはわたしたちが命において神を表現し、権威において神を代行するためです—— II コリント 3:18. 創 1:26。
 - 4. 新エルサレムで、贖われ、再生され、更新され、聖別され、造り変えられ、同形化され、栄光化された神のすべての民は神の御顔を見ます——啓 22:4。
- D. わたしたちは神を見れば見るほど、ますます自分を忌み嫌い、自分を否みます——ヨブ 42:6. マタイ 16:24. ルカ 9:23. 14:26。

III. 「純粋な良心をもって、その信仰の奥義を保っていなければなりません」—— I テモテ 3:9 :

- A. 純粋な良心とは、いかなる混合からもきよめられた良心です。
- B. わたしたちは「正しい」良心だけでなく、「純粋な」良心も持つべきです—— 1:19. 3:9 :
1. 正しい良心とは違犯のない良心です。わたしたちは自分が行なった悪を告白し、イエス、神の御子の血の清めによって正しい良心を持ちます—— I ヨハネ 1:9, 7。
 2. 純粋な良心とは、ただ神と神のみこころだけを追い求めるという証しです：
 - a. パウロが純粋な良心をもって神に仕えると言ったことができたのは、彼が神ご自身以外の何も追い求めていなかったからです—— II テモテ 1:3。
 - b. 多くの対処を経過した純粋で単一な心だけが、良心に影響を与え、純粋で単一にすることができます。

IV. 「あらゆることにおいて、神の奉仕者として自己推薦しています。すなわち……純潔にも……聖い霊にも、偽りのない愛にも」—— II コリント 6:4 前半, 6 :

- A. 純粋さはリーダーシップにおける必須条件であり、わたしたちの奉仕の基本的な条件です—— I テモテ 3:9. 1:5 :
1. 主の働きや主の召会に触れるものの中で純粋な動機を見いだすのは普通ではありません—— II テモテ 1:3. I テモテ 3:9。
 2. 純粋でないことはしばしば誤解や嫌疑の源です——テトス 1:15。
- B. 働きにおける第一の資格は霊の純粋さであって、力の度量ではありません。霊が純粋である人を見いだすのは難しいのです—— II コリント 7:1 :
1. わたしたちは神を知れば知るほど、ますます力よりも純粋さを尊びます。
 2. わたしたちの最大の問題は、混合、自己と霊との混合です——ヘブル 4:12。
 3. わたしたちはこの純粋さをはぐくみます。なぜなら、それは外なる人のどのような汚染からも解放されているからです—— II コリント 4:16。

V. 「この望みを彼に置いている者はすべて、彼がきよくあられるように、自分をきよくするのです」—— I ヨハネ 3:3 :

- A. 「この望み」とは、主のようになり、三一の神の様を担うという望みです—— 1-2 節。
- B. 自分をきよくするとは、義なる神の表現である命を生き、主の中に住むことです—— 1:9. 2:27-29. 3:7。

VI. 「都は純金であって、純粋なガラスのようであった」、「都の大通りは純金であって、透明なガラスのようであった」——啓 21:18 後半, 21 後半 :

- A. 金は神の性質を表徴するので、都が純金であることは、新エルサレムが完全に神聖な性質のものであり、神聖な性質をその要素としていることを表徴します。
- B. 純金は、新エルサレムの大通りと都の性質を象徴し、純粋なガラスのようであって、都全体が透明であり少しの不透明なものもないことを表徴します。